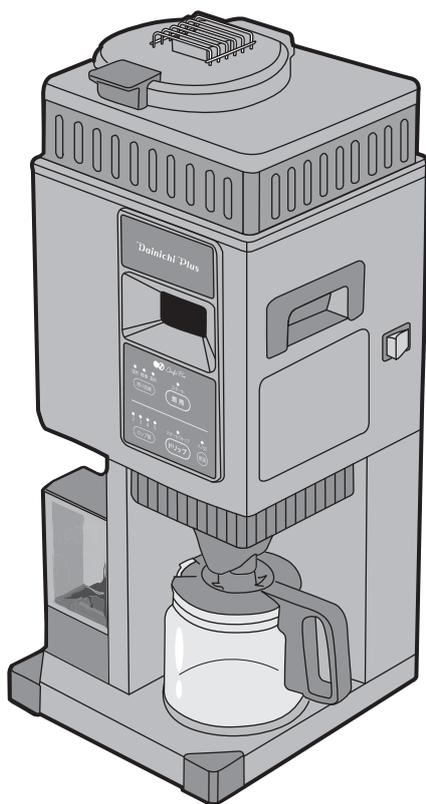


焙煎機能付きコーヒーメーカー

取扱説明書

エム シー
MC-504

＜保証書付＞裏表紙に付いています



もくじ

安全のために必ずお守りください……………	1
各部のなまえ……………	4
使用前の準備……………	5

ご使用前

運転の種類……………	5
焙煎運転するとき……………	5
ドリップ運転するとき……………	7

使用方法

お手入れのしかた……………	9
定期点検のおすすめ……………	10
故障・異常の見分けかたと処置のしかた……………	10
部品のご注文のしかた……………	13
仕様……………	14
保証とアフターサービス……………	14

点検・その他

保証書……………	裏表紙
----------	-----

この製品は日本国内専用ですので、日本国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

■製品アンケートへのご協力をお願いします
ご回答の際、ご購入機種の製造番号やお客様のお名前などの入力が必要です。

<https://www.dainichi-net.co.jp/p-enquete/>

ダイニチ工業 製品アンケート 検索



※通信料などはお客様のご負担となります。

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになったあとは、ご使用になる方がいつでも取り出せる場所に、大切に保管してください。
裏表紙の保証書は、「お買い上げ日、製造番号、販売店名」などの記入をお確かめください。

安全のために必ずお守りください

お使いになる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

	警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。		このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。
			このマークは、「注意」を促す内容を表しています。

警告(WARNING)

交流100V・定格15A以上のコンセントを単独で使用する

他の機器と併用したり、延長コードを使用しないでください。定格を超えると、発熱による火災の原因になります。



必ず行う

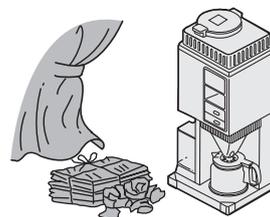


カーテンなど可燃物の近くで使用しない

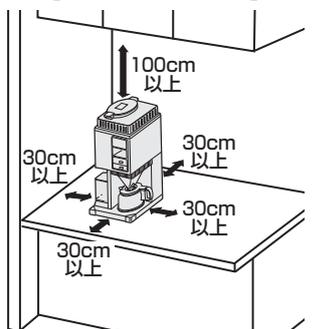
可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因や周囲の壁・家具などが変色するおそれがあります。可燃物とは右図に示す距離を確保してください。



禁止



【可燃物との距離】



水に浸けたり、水などをかけたりしない

本体を水に浸けたり、水やコーヒー、ジュースなどの液体をかけないでください。



水ぬれ禁止

水などの液体が本体内部に流れ込むと、故障・漏電・火災の原因になります。水に浸けたり、水などの液体をかけてしまったときは、ご使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。14ページ

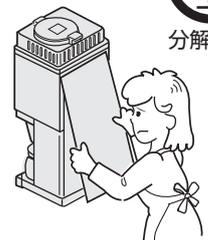


分解修理・改造の禁止

故障・破損したら、使用しないでください。また、お客様自身による分解・修理・改造はしないでください。感電や故障の原因になります。修理はお買い上げの販売店にご相談ください。14ページ



分解禁止

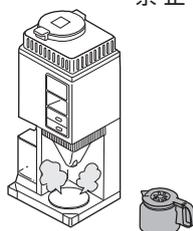


容器(サーバー)なしで使わない

過熱して発火の原因になります。



禁止

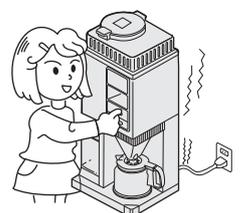


幼児の手の届くところでは使わない

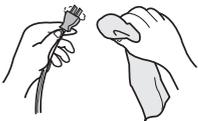
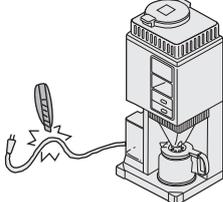
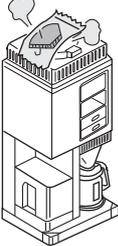
子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わないでください。やけど・けが・感電の原因になります。



禁止



警告(WARNING)

<p>本体内に異物を入れない 本体内にコインや針金などの異物を入れないでください。 火災・感電・けがの原因になります。</p>	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない 感電やけがの原因になります。</p> 
<p>焙煎機の用途以外に使用しない 予想しない事故が発生するおそれがあります。また、焙煎釜に一度焙煎された豆や焙煎を中断した豆、コーヒー豆以外のものなどを入れて運転しないでください。 火災・やけど・故障の原因になります。</p>	<p>異常・故障時は運転を停止して電源プラグを抜く 異音・異臭が出るなど異常や故障と思われるときは、ご使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。 火災・感電・けがの原因になります。 14ページ</p> 
<p>ぬれている生豆や水・液体などを入れて運転しない 火災・感電・やけど・故障の原因になります。</p>	<p>電源コードを抜いて焙煎運転を停止しない 本体や焙煎運転中の豆が冷却されず、火災・やけど・故障の原因になります。</p>
<p>電源プラグのお手入れをする ときどきは電源プラグのほこりなどを除去してください。 ほこりがたまると湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。</p> 	<p>電源コードを傷めない 電源コードを傷つけたり、破損、加工、無理に曲げる、引っ張る、重い物をのせる、挟み込むなどしないでください。また、束ねたまま使用したり、本体に巻き付けたり、電源コードがねじれたまま使用したり保管しないでください。 火災や感電の原因になります。</p> 
<p>お手入れするときは、電源プラグを抜く 感電の原因になります。</p>	<p>本体上部に物をのせない 火災・故障・やけど・けがの原因になります。</p> 

ご使用前

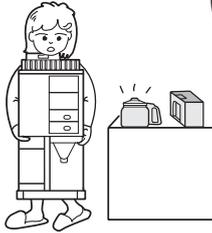
注意(CAUTION)

<p>次の場所では使用しない 火災・やけど・けがの原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水平でない場所、不安定な場所 ○ 風が当たる場所、部屋の出入り口、屋外 ○ ほこりが多い場所 ○ 敷物(毛足の長い敷物、熱に弱いビニールクロスなど)の上 ○ 水のかかる場所や水気が多い場所 ○ 直射日光の当たる場所、ガスこんろなどの炎や熱気のある場所 ○ エアコン・暖房機の温風が直接当たる場所 	<p>煙感知器の近くに設置しない 焙煎中の煙で、煙感知器が作動することがありますので、換気扇を回すか、窓を開けて換気をよくしてください。</p>
	<p>規定量の生豆を入れる 1回の焙煎で付属の計量カップに、すりきり1杯(60g)の生豆を入れてください。 焙煎された豆の仕上がりに変化が出たり、火災や故障の原因になります。</p>

安全のために必ずお守りください

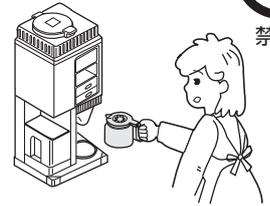
⚠ 注意 (CAUTION)

本体を運ぶときは必ずサーバー、水タンクを取り外して運ぶ
サーバー、水タンクなどが落下して、破損したり、けがの原因になります。



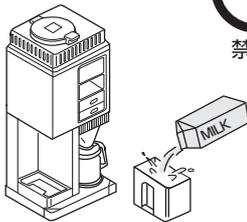
必ず行う

ドリップ中は、サーバーを引き出さない
やけどの原因になります。



禁止

水タンクに水以外のものを入れない
異常動作・故障の原因になります。



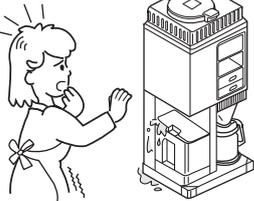
禁止

蒸気が出る場所には顔を近づけたり手を触れない
やけどのおそれがあります。特に乳幼児には触れさせないようにご注意ください。



高温注意

水タンクに水を入れすぎない
水タンクに最大使用水量を超える量の水を入れないでください。
サーバーからコーヒーがあふれ、やけどの原因になります。



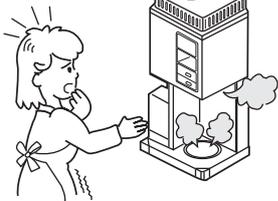
禁止

生豆投入口に手を入れない
やけど・けがの原因になります。



禁止

保温プレートが熱いときは、水タンクをセットしない
湯口から熱湯が吹き出し、やけどの原因になります。



高温注意

回転物注意

コーヒー粉排出口には指を入れないでください。
内部の刃でけがの原因になります。



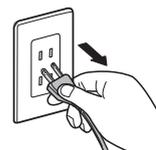
回転物注意

使用中や使用後しばらくの間は本体に手を触れない
保温プレートや保温プレート周辺・焙煎釜や本体上部に手を触れないでください。
高温のため、やけどの原因になります。



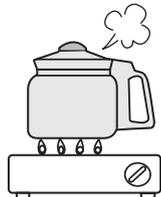
高温注意

電源プラグを抜くときは、電源プラグを持って抜く
感電やショートして発火の原因になります。



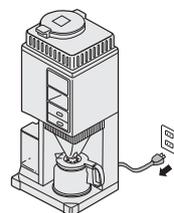
必ず行う

サーバーは直接火にかけない
サーバーが割れたり、取っ手などが溶けたり、発火の原因になります。



禁止

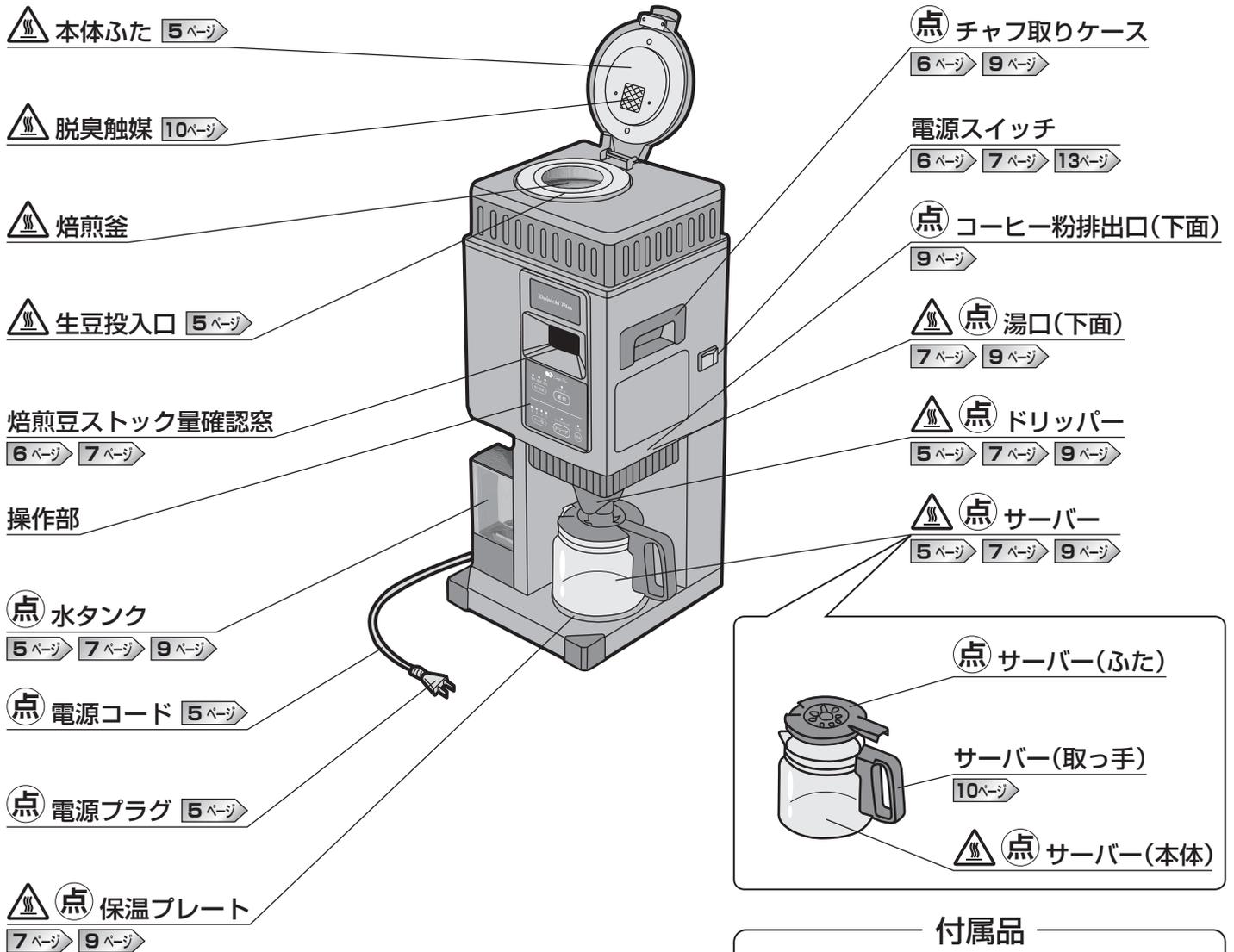
長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く
けがややけど、絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。



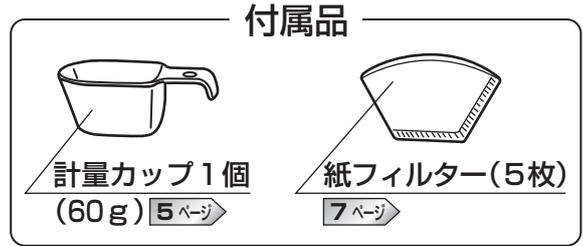
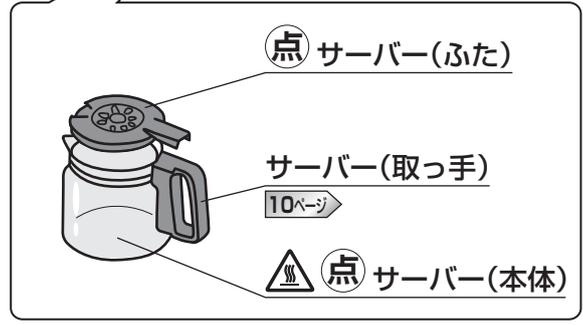
プラグを抜く

各部のなまえ

外観図



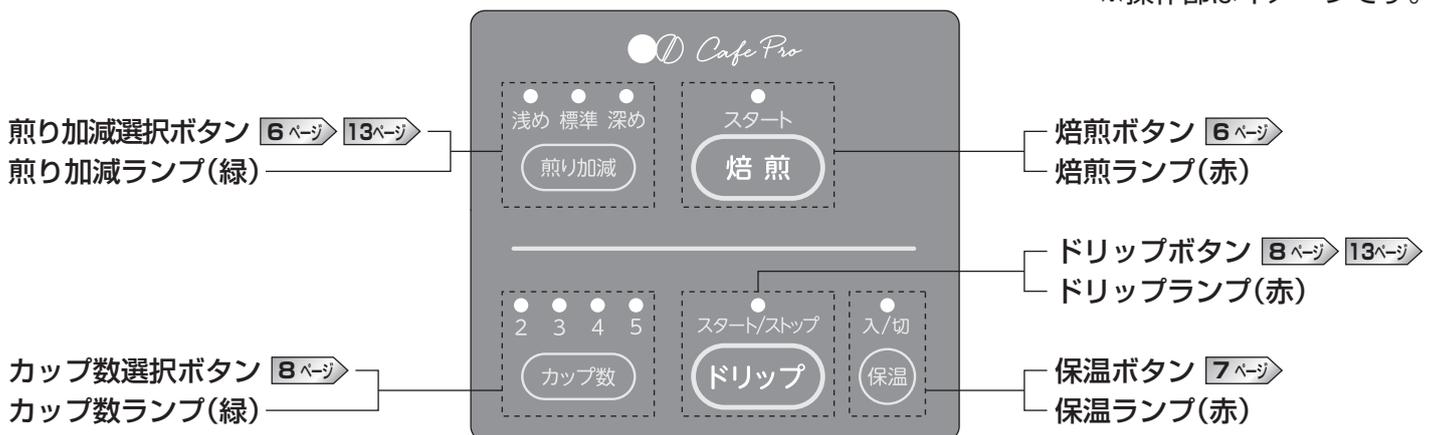
⚠ 運転中高温になる部分(ご注意ください)
● 点検・手入れが必要な部分



ご使用前

操作部

※操作部はイメージです。

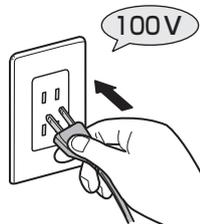


使用前の準備

1 次の場所に設置する

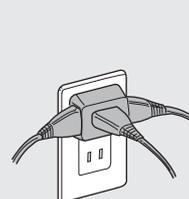
- ガスこんろなどの熱や風の影響を受けない水平で安定した場所に設置してください。
- 本体が囲われない場所に設置してください。
- 毛足の長い敷物やほこりなどが吸気口をふさがないように設置してください。
- 水のかからない場所に設置してください。

2 電源プラグをコンセント(100V)に確実に差し込む



お守りください

- 家庭用電源(100V)以外では使用しないでください。動作異常や予想しない事故の原因になります。
- 200V電源には絶対に差し込まないでください。火災・感電・故障の原因になります。
- 定格15A以上のコンセントを単独で使用し、他の機器と併用したり、延長コードを使用しないでください。定格を超えると、発熱による火災の原因になります。



禁止

メモ

- 初めてお使いになるときや長期間お使いにならなかったときは、水タンク、ドリッパー、サーバーを水洗いしてください。コーヒー豆を入れずに水だけでドリップを1~2回行なってください。

ご使用前

使用方法

運転の種類

運転の種類は、焙煎運転とドリップ運転の2通りがあり、単独で運転することも同時に運転することもできます。

運転の種類	使用用途
焙煎運転	生豆を焙煎するために使用します(1回の焙煎で約10杯分の焙煎ができます)。初めてお使いになるときや、焙煎豆をストックするときにお使いください。
ドリップ運転	焙煎した豆をドリップします(2~5杯分の選択ができます)。焙煎豆がストックされているときにお使いください。

焙煎運転するとき

1 生豆を入れる

- ① 本体ふたを開け、何も入っていないことを確認する。入っていたときは、掃除機などで吸い取ってください。
- ② 生豆を付属の計量カップにすりきり1杯入れる(60g)。すりきり1杯より少ない、または多量の生豆は絶対に入れないでください。故障の原因になります。(計量カップすりきり1杯でコーヒー約10杯分の焙煎ができます)

【すりきり1杯】



計量カップ

本体ふた

生豆投入口



2 電源スイッチを入れる

電源スイッチは本体正面に向かって右側にあります。



- 煎り加減ランプ(緑)とカップ数ランプ(緑)が点灯します。

3 煎り加減選択ボタンを押し、煎り加減を選択する

煎り加減選択ボタンを押すごとに煎り加減ランプ(緑)が切り換わります。



- お好みの煎り加減に設定できます。
 - ・ コーヒーの苦味を強くしたいとき…深め
 - ・ コーヒーの酸味を強くしたいとき…浅め
- 選択した煎り加減ランプ(緑)が点灯します。

4 焙煎ボタンを押す

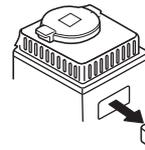


- 焙煎ランプ(赤)が点灯します。
- 焙煎中は、本体ふたを開けないでください。
- パチパチという音や煙がでることがありますが、異常ではありません。

5 約14分で焙煎が終了

焙煎開始から約11分後に焙煎豆ストックに焙煎豆が落ち、その後、約3分間冷却が行われ、焙煎ランプ(赤)が消灯し、焙煎が終了します。

6 チャフ取りケースにたまった生豆の皮(チャフ)を捨てる



チャフ取りケース

7 電源スイッチを切る

便利な使いかた

- 焙煎した豆を最大約30杯分ストックできます。ストックしておくことにより、ドリップのとき、焙煎の必要がなく、短時間でドリップを行うことができ便利です。焙煎豆をストックしておくことをおすすめします。

連続して焙煎したいとき

- 焙煎ランプ(赤)点灯中は次の焙煎は開始できません。焙煎ランプ(赤)が消灯してから生豆を入れてください。また、生豆を入れたあと、ただちに焙煎を行なってください。時間をおくと、焙煎釜の余熱により、設定した「煎り加減」と異なることがあります。

メモ

- 焙煎運転中は、パチパチという音が鳴り、豆が焼ける臭いや煙が出ることがありますが、異常ではありません。臭いが気になる方は、換気をしながらご使用ください。著しく白い煙が出る場合は、ご使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。[14ページ](#)

お守りください

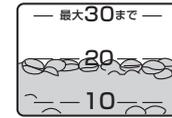
- 1回の焙煎では約10杯分(付属の計量カップすりきり1杯分)しか焙煎できません。焙煎豆ストック量確認窓より、ストック量が約30杯分を超えないよう注意してください。約30杯を超えると故障の原因になります。
- 焙煎途中で生豆を追加しないでください。また、焙煎途中で電源スイッチを切らないでください。故障の原因になります。
- 当社指定の生豆以外は使用しないでください。
- 焙煎終了後、焙煎した豆の品種・大きさによっては焙煎釜から完全に排出されず、釜中に数十粒程度残るときがあります。このときは焙煎釜が十分に冷えてから本体ふたを開け、生豆投入口より掃除機などで豆を吸い取ってください。残ったままにしておくと、次回焙煎時に煎りムラの原因になります。

ドリップ運転するとき

1 焙煎豆ストック量を確認する

必要な量の焙煎豆のストックがあることを確認してください。
足りないときは、5ページ「焙煎運転するとき」に従い、焙煎を行なってください。

【焙煎豆ストック量確認窓】



2 電源スイッチを入れる



○ 煎り加減ランプ(緑)とカップ数ランプ(緑)が点灯します。

3 保温ランプ(赤)消灯を確認する

保温ランプ(赤)が点灯しているときは、保温ボタンを押し、保温を切ってください。

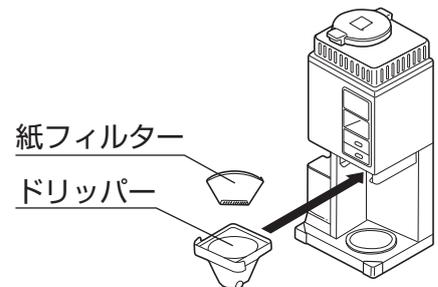


4 ドリッパーに紙フィルターをセットする

- ①ドリッパーを取り出す
- ②紙フィルターを折り、ドリッパーに入れる
- ③ドリッパーをセットする

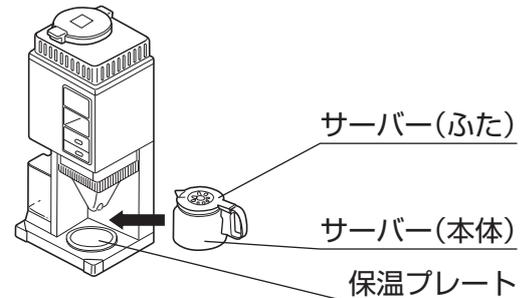
【紙フィルターの折りかた】

紙フィルターは、市販の3～4杯用(カリタ102相当品)を使用してください。



5 サーバーをセットする

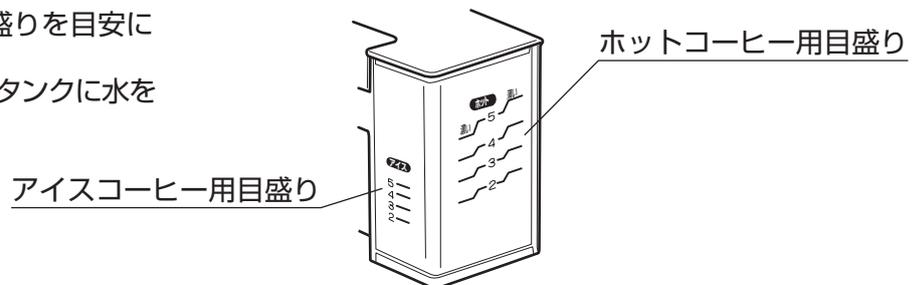
サーバー(本体)にサーバー(ふた)をし、保温プレートの上にセットしてください。



6 水タンクに水を入れ、セットする

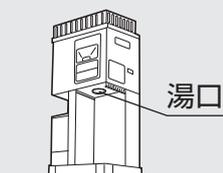
お好みに合わせて、水タンクの見盛りを目安にコーヒーの濃さを調節できます。

- ご希望のカップ数に合わせて、水タンクに水を入れてください。



メモ

- サーバー、ドリッパーがセットされていることを確認してください。湯口より熱湯が噴き出し、やけどの原因になります。



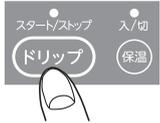
7 カップ数ボタンを押し、カップ数を選択する

カップ数選択ボタンを押すごとにカップ数ランプ(緑)が切り換わります。



- 選択したカップ数ランプ(緑)が点灯します。

8 ドリップボタンを押す



- ドリップランプ(赤)と保温ランプ(赤)が点灯します。

9 約7分でドリッパーが終了(5杯のとき)

- ドリップランプ(赤)が消灯します。
- ドリッパー内の紙フィルターは捨ててください。
- ※ドリッパーより湯気が出ますので、やけどに注意してください。

10 ドリップ後、保温開始

- 保温は1時間後に自動停止し、保温ランプ(赤)が消灯します。
- 保温が必要ないときやサーバーが空のときは、保温ボタンを押して切ってください。

メモ

- 続けてドリッパーするときには保温を切ってください。保温ランプ(赤)が点灯しているときは、ドリッパーできません。

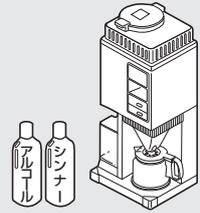
お守りください

- 保温ランプ(赤)が点灯しているとき、または保温プレートが熱いときは、サーバー、ドリッパーがセットされていないまま水タンクをセットしないでください。湯口より熱湯が噴き出し、やけどの原因になります。
- 水タンクには、水量「5」を超える水を入れないでください。サーバーからコーヒーがあふれることがあります。
- 水タンクには絶対に熱湯を入れないでください。変形したり、熱湯が飛び散ったりして危険です。
- ドリップ運転と同時に保温プレートの保温が始まりますので、保温プレートに手を触れないでください。
- 1週間以上使用しないときは、焙煎豆の風味が変化しますので、ストックされている焙煎豆を取り出してください。 [11ページ](#)

お手入れのしかた

お守りください

- 必ず電源プラグをコンセントから抜き、保温プレート、焙煎部が冷えてから行なってください。やけどの原因となります。
- 本体の汚れをふき取るときは、シンナー・アルコール類は使用しないでください。色が変わったり、表面に傷が付いたり割れやすくなります。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤をしみ込ませた布でふいてください。



ご使用のたびに



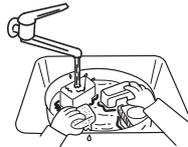
本体・保温プレート

- よく絞ったふきんでふき取ってください。
- 直接水をかけないでください。



ドリッパー・サーバー(本体)・水タンク・チャブ取りケース・サーバー(ふた)

- スポンジを使い水洗いする。台所用洗剤以外は使用しないでください。



コーヒー粉排出口・湯口

- ドリップ時の湯気が結露し、水滴にコーヒー粉が付着することがあります。付着したコーヒー粉は、歯ブラシなどで取り除いてください。付着したままにしておくと、酸化した豆の臭いがつき、次に使うとき、コーヒーの風味をそこねます。



湯の出具合が悪くなったら

水質により本体内のパイプに湯アカが付着し、湯の出具合が悪くなる場合があります。次の方法でお手入れをしてください。

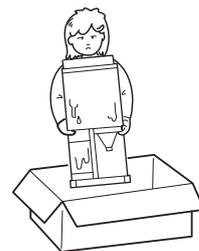
- ①ドリッパー・サーバーをセットする。
- ②レモン半分をふきんにくるみ、水タンクにしぼり入れる。
- ③水タンクに水量目盛り「5」まで水を入れ、本体にセットする。
- ④保温ボタンを押す。
- ⑤水タンク内の水がなくなったら、サーバーにたまった湯を捨て、サーバーをもとに戻す。
- ⑥もう一度②～③を繰り返す。
- ⑦水タンク内の水がなくなったら保温ボタンを押して保温を停止させ、サーバーにたまった湯を捨てる。



保管するとき



- ストックされている焙煎豆は、すべて取り出してください。11ページ
- ぬれたまま保管しないでください。よく水分をふき取り、乾燥させた状態で保管してください。



定期点検のおすすめ

長期間ご使用になりますと機器の点検が必要となります。お買い上げの販売店などに点検依頼(有料)をおすすめします。

愛情点検		長年ご使用のコーヒーマーカーの点検を！	
	<p>こんな症状はありませんか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本体が異常に熱かったり、焦げくさいニオイがする。 ・運転中に異常な音がする。 ・電源コードに傷がついていたり、触れると通電したり、しなかったりする。 ・サーバーの取っ手がぐらつく。 ・その他の異常や故障がある。 	▶	<p>ご使用中 止</p> <p>事故防止のため、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。</p>

故障・異常の見分けかたと処置のしかた

修理を依頼する前に

次の症状は故障ではありません。修理を依頼される前にもう一度ご確認ください。

症状	原因	処置方法
電源が入らない	電源プラグが抜けている。	電源プラグをコンセントに確実に差し込む。 5ページ
水が漏れている	水タンクを正しくセットしていない。	水タンクを正しくセットする。 7ページ
コーヒーがあふれる	紙フィルターが正しくセットされていない。	紙フィルターを正しくセットする。 7ページ
	紙フィルターが入っていない。	紙フィルターを交換し、正しくセットする。 7ページ
	前回使用した紙フィルターを交換せずに使用した。	ドリッパー・サーバーが正しくセットされていない。 7ページ
脱臭触媒が赤熱している	脱臭触媒が詰まり気味で、特に深めに焙煎したときに起こることがあります。そのまま使用を続けると、ほこりなどに発火して火災のおそれがあります。	すぐに電源スイッチを切り、機器および焙煎中の豆が冷えてから本体ふたを開け、掃除機などで吸い取ってください。その後、生豆を入れずに焙煎運転(空焼き運転)を行なってください。 5ページ
焙煎状態がばらつく	規程量の生豆を入れていない。また、生豆の種類・含水量および生豆を入れた時の焙煎釜温度によって焙煎状態がばらつきます。	規程量の生豆(付属の計量カップにすりきり1杯)の生豆を入れる。 5ページ 一度焙煎運転を停止し、焙煎釜が温まっている状態で再度焙煎を行うと焙煎状態が安定します。
コーヒーが薄い コーヒー粉の量が少ない	焙煎豆ストック内で焙煎豆が詰まっている。	機器を揺するなどして焙煎豆ストック内の焙煎豆に軽く振動を与える。
いつもよりドリップ時間が長い	本体内のパイプに湯アカが付着している。	○「湯の出具合が悪くなったら」をお読みにになり、処置を行なってください。 9ページ
水タンクに水が入っているのに、ドリップランプ(赤)が消灯している(保温ランプ(赤)は点灯している)		○処置を行なっても繰り返し症状が現れたときはご使用中を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。 14ページ
焙煎時、「パチパチ」と音がする	豆が焼ける音です。	臭いや煙が出ることがありますが、異常ではありません。

故障・異常の見分けかたと処置のしかた(つづき)

このようなときは故障ではありません。適切な処置を行なってください。

このようなとき	処置方法
焙煎豆ストック内の焙煎豆を取り出したい	ドリッパーに紙フィルターをセットしてから、水タンクをセットせずにドリッポボタンを押す。焙煎豆が粉になり排出されます。 焙煎豆が多いときは、繰り返し行なってください。 ▶ 7ページ
焙煎中に停電した 焙煎中に運転スイッチを切った	機器および焙煎中の豆が冷えてから本体ふたを開け、掃除機などで吸い取り、再度焙煎運転を行う。 ▶ 5ページ
ドリップ中に停電した	○続けてドリップしたいときは、保温ボタンを押すとドリップ運転を再開します。このとき、保温ランプ(赤)のみ点灯します。 ○最初からドリップするときは、紙フィルター・サーバー内に入っているコーヒーを取り出し、再度セットしてから水タンクに規定量の水を入れ、ドリップ運転を行う。 ▶ 7ページ
ドリップ中に運転を途中でやめた	
水が漏れている	水タンクにひびが入っている。または破損している。 新しいものと交換してください。 ▶ 13ページ

異常の原因と処置のしかた

何らかの異常で表のようなエラー表示や症状が現れたときは、適切な処置を行なってください。

表示部(エラー表示)	原因(安全装置)	処置方法
 ランプ点滅(緑)	機器が転倒したため、自動停止した。 (転倒自動停止装置が作動)	電源プラグをコンセントから抜き、機器の水分を完全に乾かしてから、「エラー時の処置方法1」を行う。 ▶ 12ページ
 ランプ点滅(緑)	一時停電した、または電源プラグが抜けかかっているため、自動停止した。 (停電安全装置が作動)	電源スイッチを切り、「エラー時の処置方法1」を行う。 ▶ 12ページ
 ランプ点滅(緑)	焙煎豆ストックに生豆などが入り、ミルがロックして自動停止した。	電源スイッチを切り、「エラー時の処置方法2」を行う。 ▶ 12ページ ▶ 13ページ
 ランプ点滅(緑)	規定量より多い生豆を入れている。	電源スイッチを切り、機器および焙煎中の豆が冷えてから本体ふたを開け、掃除機などで吸い取る。 煎り加減選択ボタンとカップ数選択ボタンを押しながら電源スイッチを入れる。通常が表示に戻ったら規定量の生豆を入れ、再度焙煎運転をしてください。 ▶ 6ページ
	点検・修理が必要な故障です。	規定量の生豆を入れても再度エラー表示が現れたときはご使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。 ▶ 14ページ
上記以外のランプ点滅 ランプが点灯しない	点検・修理が必要な故障です。	電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。 ▶ 14ページ

手入れ・その他

処置を行っても直らないとき

故障が考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。 ▶ 14ページ
故障したまま使用を続けると、予想しない事故が発生するおそれがあります。

エラー時の処置方法1

◆焙煎釜に豆が残っているとき

- 機器および焙煎中の豆が冷えてから本体ふたを開け、生豆投入口より掃除機などで吸い取る。
電源スイッチを入れ、再度焙煎運転を行う。◀6ページ

◆水タンクに水が残っているとき

- 続けてドリップしたいときは、電源スイッチを入れ、保温ボタンを押す。
このとき、保温ランプ(赤)のみ点灯しますが、ドリップは行えます。
- 最初からドリップするときは、紙フィルター・サーバー内に入っているコーヒーを取り出し、再度セットしてから水タンクに規定量の水を入れ、電源スイッチを入れてからドリップ運転を行う。◀7ページ

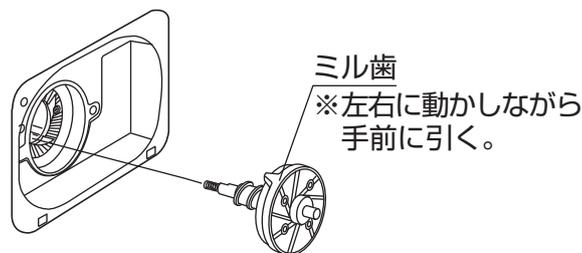
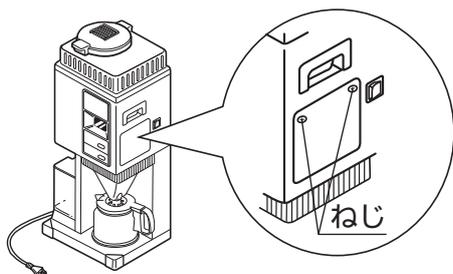
◆その他のとき

- 電源スイッチを入れ、煎り加減選択ボタンを押す。
エラー表示が消灯し、煎り加減ランプとカップ数ランプが点灯します。続けて運転したいときは、お好みの運転に設定してください。

エラー時の処置方法2

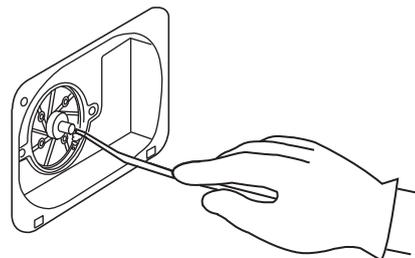
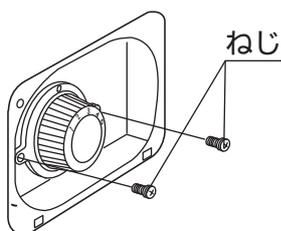
必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷えてから手袋をして行なってください。
けがをするおそれがあります。

1 本体右側面のカバー取付ねじ2本を外し、 4 ミル歯を取り外す カバーを外す

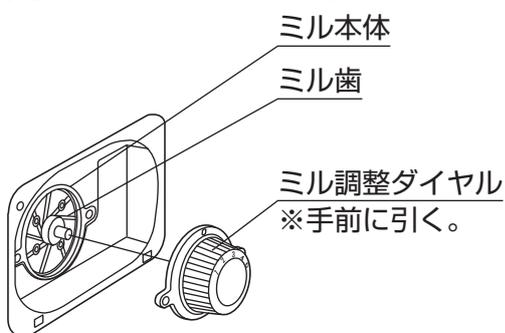


- ミル歯が外れないときは、ミル本体とミル歯の間に付着しているコーヒー粉を先のとがったもので取り除いてください。

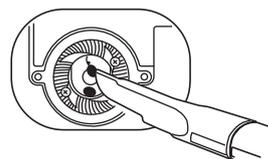
2 ミル調整ダイヤル取付ねじ2本を外す



3 ミル調整ダイヤルを取り外す

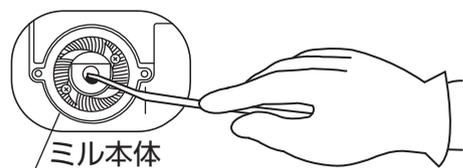


- ミル歯を取り外すと同時に焙煎豆ストック内より焙煎豆が少しずつ落ちてきますので、掃除機などで吸い取ってください。



5 ミル本体に焙煎豆が入り込んでいないか確認する

- 焙煎豆が入っているときは、先のとがったもので取り出してください。



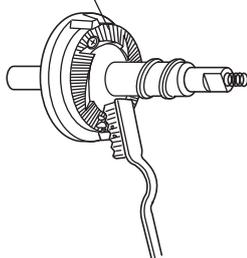
故障・異常の見分けかたと処置のしかた(つづき)

- 6** ミル調整ダイヤル、ミル歯、ミル本体に付着しているコーヒー粉を歯ブラシなどで取り除く

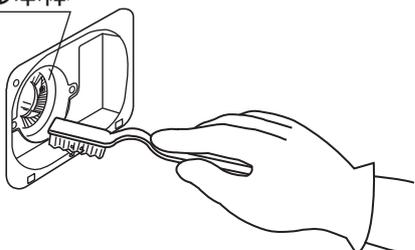
ミル調整ダイヤル



ミル歯

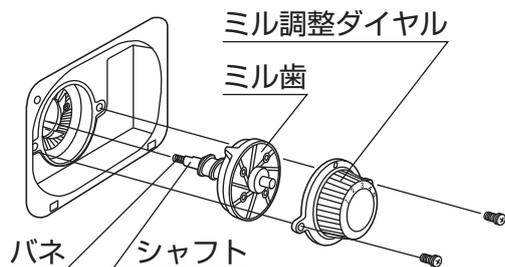


ミル本体



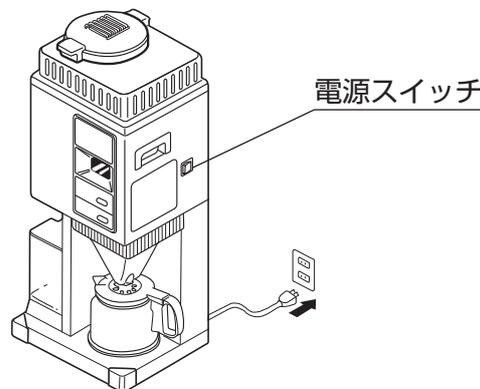
- 7** 取り外したときと逆の順序で取り付ける

- シャフトのD形状に合わせて入れてください。
- ミル調整ダイヤル目盛りが「3」~「4」になっていることを確認してください。
- バネがミル歯のシャフト先端に付いていることを確認してください。



- 8** 電源プラグをコンセントに差し込み、煎り加減選択ボタンとカップ数選択ボタンを押しながら、電源スイッチを入れる

- 煎り加減ランプ(緑)とカップ数ランプ(緑)が点灯し、通常表示に戻ります。



煎り加減選択ボタン

カップ数選択ボタン



部品のご注文のしかた

次の別売部品は、お買い上げの販売店にご注文ください。その際は、型名・部品名をはっきりとお伝えください。また、弊社ホームページの「ダイニチWebShop」でもご注文ができます。

<https://webshop.dainichi-net.co.jp/>

ダイニチWebShop

検索



※通信料などはお客様のご負担となります。

別売部品

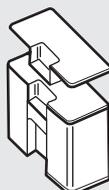
(この部品は本コーヒーマーカー用です。他の機器では使用しないでください。また、価格は予告なく変更することがあります。その他の部品についてはお買い上げの販売店にご相談ください。)



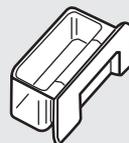
サーバー(本体)
2,640円
(本体価格 2,400円)
サーバーフタ
1,100円
(本体価格 1,000円)



ドリッパー
1,540円
(本体価格 1,400円)



水タンク(本体)
2,640円
(本体価格 2,400円)
水タンクフタ
1,320円
(本体価格 1,200円)



チャフ取りケース
1,320円
(本体価格 1,200円)



計量カップ
1,100円
(本体価格 1,000円)

仕 様

型 名	MC-504	
外 形 寸 法(高さ×幅×奥行)	616 mm×240 mm×265 mm	
質 量	約10.7 kg	
コ ー ド 長 さ	2.0 m	
定 格 電 圧	AC100 V	
定 格 周 波 数	50/60 Hz	
焙 煎 運 転	定 格 消 費 電 力	595/595 W
	生 豆 投 入 量	60 g(約10杯分)
	焙煎豆ストック量	最大約30杯分
ドリップ運転	定 格 消 費 電 力	750/750 W
	最 大 容 量	5杯(水量:650 mL)
焙煎・ドリップ同時運転	定 格 消 費 電 力	1,345/1,345 W
安 全 装 置	転倒自動停止装置、停電安全装置	
付 属 品	計量カップ(60g用)、紙フィルター(5枚)	

保証とアフターサービス

使用方法・お手入れのしかた・修理のご相談・別売部品の購入などは、お買い上げの販売店にご相談ください。

保証について

◆保証書(裏表紙に付いています) 裏表紙

- 保証書は、必ず「お買い上げ日、製造番号、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
- 販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。
- 内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

◆保証期間

保証期間は、お買い上げ日から本体1年間です。

補修用性能部品について

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 本コーヒーマーカーの補修用性能部品は、製造打切り後9年保有しています。

修理を依頼されるときは

- 「故障・異常の見分けかたと処置のしかた」に従ってお調べください。 10ページ 11ページ 12ページ 13ページ
- 処置を行っても直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。その際は、右の事項をご連絡ください。

◆保証期間中

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。

◆保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できるときには、ご希望により有料修理させていただきます。

◆修理料金

技術料+部品代などで構成されています。

品 名：焙煎機能付きコーヒーマーカー
型 名：本体側面に表示
お買い上げ日：保証書に記載
症 状：エラー表示など、できるだけ詳しく

保証とアフターサービス



ご相談窓口(使用方法・お手入れのしかた・修理のご相談など)

お客様ご相談窓口(通話料無料)

携帯電話、スマートフォンからお問い合わせいただけます。

TEL 0120-468-110

FAX 0120-468-220

<受付時間>

9:00~12:00/13:00~17:00(土曜・日曜・祝日は除く)

※型名(本体側面に表示)をご確認のうえ、ご連絡ください。

インターネットからのお問い合わせ

■パソコン・タブレット・スマートフォンからアクセス

<https://www.dainichi-net.co.jp/support/>

ダイニチ工業 お客様サポート



※通信料などはお客様のご負担となります。

ダイニチ工業株式会社におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

- ダイニチ工業株式会社(以下「弊社」)は、お客様の個人情報をお客様からのご相談への対応や修理及びその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
- 次の場合を除き、弊社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
 - ①修理やその確認業務を委託する場合
 - ②法令の定める規定に基づく場合
- 個人情報に関しては、お問い合わせいただきました窓口にご相談ください。

焙煎機能付きコーヒーマーカー保証書

型名	MC-504	製造番号	
お客様	お名前	様	
	ご住所	〒	
	電話番号	見本	
	お買い上げ日	販売店名・住所・電話番号	
	年 月 日		
	保証期間(お買い上げ日から)		
	本体1年間		

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。

お買い上げの日から左記期間中故障が発生したときは、本書をご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

(お客様へお願い)

お手数ですが、お名前・ご住所・電話番号をわかりやすくご記入ください。

販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。

(ご販売店様へ)

お買い上げ日・製造番号・貴店名・住所・電話番号を必ず記入し(記入のないときは無効になります)、本書をお客様へお渡しください。

<無料修理規定>

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で故障したときは、お買い上げの販売店が無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理を受けるときは、商品と本書をご持参、ご提示のうえ、お買い上げの販売店に依頼してください。
- ご転居のときは、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
- ご贈答品などで本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼できないときは、弊社にご相談ください。
- 保証期間内でも次のときは、有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤り、不当な修理・改造による故障や損傷
 - (ロ) お買い上げ後の移動・落下などによる本体の故障や損傷、使用状況などによる変形、変色
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、および公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)などによる故障や損傷
 - (ニ) 異常電圧、指定外の電源(電圧・周波数)、水、ほこりなどによる故障や損傷
 - (ホ) 点検の費用
 - (ヘ) 本書の提示がないとき
 - (ト) 本書にお買い上げ日・お客様名・販売店名の記入のないとき、あるいは字句を書き替えられたとき。通信販売などでご購入したときは、商品の送り状・領収書などの提示がないとき
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明のときは、お買い上げの販売店、または弊社にお問い合わせください。

※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書(14ページ)をご覧ください。

ダイニチ工業株式会社

〒950-1295 新潟市南区北田中780-6

お客様ご相談窓口TEL 0120-468-110

ホームページ <https://www.dainichi-net.co.jp/>

